1996 年の≪リジューの聖テレジア帰天 100 周年に向けての O.Carm 総長と O.C.D 総長から全カルメルファミリーへの共同書簡『福音への回帰』≫の要約

1996 年 7 月 16 日、カルメル山の聖母の祭日に≪リジューの聖テレジア帰天 100 周年に向けてのカルメル会総長ヨセフ・チャルマー師と跣足カルメル会総長カミロ・マクシセ師から全カルメルファミリーへの共同書簡『福音への回帰』≫が送られました。ちょうど、同じ年（1996 年）の 3 月 25 日に、教皇ヨハネ・パウロ二世から使徒的書簡『奉献生活』が発行され、次の年（1997 年）の 10 月 19 日に同教皇によって、33 番目の教会博士の称号をカトリック教会から受けました。この両総長の書簡は、『奉献生活』の発行後、教会博士の称号を受ける過程で送られた書簡です。この中で、リジューの聖テレジアの使命が「神は愛である」という要約をしていますので、紹介します。

1. 彼女の使命は、キリスト教メッセージの本質的なことを示します。それは「神は愛である」ということと、「福音的貧しさ」に専念するということです。その点において福音的な女性であり、観想から汲み取った女性です。第二バチカン公会議の実りが福音への回帰と神の御言葉への回帰から照らされるならば、それにふさわしい証言者となります。『奉献生活』No.57 を引用して、「人類に対する神の優しさのしるしとなる」女性としてテレジアを挙げることができます。
   この観点からテレジアのメッセージの再読を促しています。コンテキストとして現代の教会の『奉献生活』と『教会の使命』の観点から考察し、イエス・キリストの追従者としてのテレジアの歩みという本質的な観点から、「すべての奴隷状態からの解放」と、不信感から信頼への転換、外面的修業から福音的自己放棄への転換を考察するよう勧めます。

2. 次に「イエスの生命のプロジェクト」という大枠で述べていることは、御言葉の受肉とイエスの生涯、十字架の死と復活、そして聖霊降臨というイエス・キリストの福音の本質に焦点を当てます。「イエスの生命のプロジェクト」は、この世の死のプロジェクト、すなわち死に向かわせる働きに対峙しています。この世の宿命論に留まることから神の子となる生命の呼びかけへの応答に生きる招きです。御父の御顔であるイエスの生涯は、信じる者の生命の軸です。この生命のプロジェクトは、兄弟姉妹性の中で分裂から交わりへ向かいますし、富のエゴイスティック的な使用から隣人との共用へ向かいます。

3. リジューの聖テレジアはこの「イエスの生命のプロジェクト」を生き、証言しました。わたしたちを愛する神の近さとその姿を次のように示しています。

① 神の御言葉の生きた泉から飲む

当時、テレジアが聖書の御言葉から「泉を汲んでいたこと」は明らかです。自分の使命をパウロのコリント人への手紙の 12 章 13 章から、「わたしの使命、それは愛です」を導いたのも聖書の御言葉です。

② 神の父性・母性の再発見

テレジアの時代にフランスに広がっていた歪んだ霊性ヤンセニズムの影響の中で神の恐ろしさが強調されましたが、テレジアは父性と母性を持った神の優しさを再発見しました。

③ 単純な対話であり親子の対話としての祈り

彼女の祈りは、アヴィラの聖テレジアと同様、神との親しい交わりの対話を行い、次第に単純な子としての祈りに変わっていきます。

④ 「完徳」としての聖性から「交わり」としての聖性へ

父性と母性の顔を持った神の再発見は、彼女に新しい道を開きます。「小さい道」と言われる弱さの体験からの委託への道です。ここには、英雄的な徳を修める「完徳の道」による聖性ではなく、父または母と子の交わりの中の「委託と自己認識」による聖性の道を開きます。

⑤ 宣教への忠実さと信仰の浄化

父性と母性の顔を持った神の再発見は、神の子としての自分の召命に忠実であることを理解します。同時にこの召命への忠実さは、信仰の浄化を伴うことも証していきます。彼女の修道名は「幼きイエスと尊き面影」と二重の名前を持っています。受肉の神秘を現す「幼きイエス」は信頼と委託を示していきますが、同時に人々の救いのために十字架に向かって歩まれたイエスの表現としての「尊き面影」は、人々の救いのための

「苦しみ」をも引き受けていくことを理解しますし、苦しみが神の愛に変容する十字架の神秘をも理解します。神の燃える愛が、信仰を浄化するといっていいでしょう。テレジアは「愛の殉教者」となります。

4. この書簡は「わたしたちの兄弟姉妹性を創る神」という大枠を論じますが、その中で憎しみと分裂を乗り越える「兄弟姉妹的愛の福音的次元」と「共同体の中の兄弟姉妹的愛とその生活」を示しています。テレジアは、キリストのうちにある「新しい生活」の「兄弟姉妹愛」を引き受けていきます。彼女の宣教は、「イエスを愛しイエスを愛させること」です。このためにもイエスのもたらした「新しい生活」である「兄弟姉妹愛を伝える生活」を引き受けていきます。

   また、イエスの母であり追従者である聖母マリアの親しさを語らずにはいられないと言います。

   これらの愛の交わりの観点から、現代世界に対して預言的証言となることを強調します。カルメル会は最初から預言者エリヤの息子として預言者の血統を引いている中で、「神の愛の交わりの預言者」となるように呼びかけていると言えましょう。テレジアは、この導き手となるとこの書簡は伝えています。

5. 結論として、テレジアと共にわたしたちの観想的使徒的生活を刷新するように呼びかけています。何事においても彼女が愛の中心性をわたしたちに示したように、「神の愛」から始めるように勧告しています。この書簡においてO.Carm 総長と O.C.D 総長の共同声明を読み取るとき、テレジアの「愛の中心性」のしるしを理解できます。